

大山阿夫利神社秋季例大祭 お下り

2019年8月27日

今年の酷暑は8月も終わろうとするこの期に及んで、厳しい残暑を繰り返しておりますが、季節は移ろい大山に秋の訪れを告げる「秋季例大祭」が本日より始まりました。

このお祭りは、夏山期間中(7/27~8/17)の山内の皆さんの苦労を労うために、大山の神様(大山祇大神)がお神輿に乗って麓に降りてきて、社務局に鎮座しお祭りを行うもので、一般的な観光行事と趣を異にしています。



門外不出の神事である遷座、すなわち宮司により神輿に乗せられた神様は、8人の白装束の輿丁に担がれて、下社から急階段の男坂を太鼓の音とともに駆け下りて、八意思兼神社(追分社)に到着しました。

道中転げ落ちないように職方姿の阿夫利睦が後方より引っ張ります。



追分社で一服した後、昔ながらの祭禮提灯が軒先に飾られたコマ参道まで下りて来ました。

ここから明治初年から約 140 年に渡って継承されている渡御行列として隊列を整え、大山の6町内を全て廻ります。

雲の多い天候ながら猛暑の中で着物姿は大汗ものです。



行列は七色の切麻(きりくさ:紙片)を撒いて清める神職を先頭に、阿夫利睦の従者が奏でる「チャンチャン、ジャーン」という独特な錫杖の刻むリズムに合わせて、階段をゆっくりゆっくりと下ります。



先導師の皆さんが扮する袴姿の警護の武士が続きます。

更に、稚児や巫女、白丁など、江戸時代さながらの装束の隊列が、観光客や登山客のまだいない朝の静かなコマ参道を進みます。



神様の鎮座されるお神輿のすぐ後ろには、赤袍を纏った正装の宮司が従い、沿道の住民の出迎えを受けます。

昔は莫座を敷いて正座で行列を迎えたそうですが、今はスマホを持ってお出迎えです。